

## 議事録

会議名	令和5年度第2回京田辺市総合教育会議
日時	令和6年2月27日（火）午前10時30分
場所	京田辺市役所305会議室
出席者	上村市長、山岡教育長、西村教育長職務代理者、藤原教育委員、上村教育委員、伊東教育委員 （事務局）池田企画政策部長、森田企画政策部副部長、櫛田企画調整室指導主幹（教育部副部長）、古谷企画調整室指導主幹（教育総務室担当課長）、出島企画調整室主査（教育総務室担当課長補佐）、鈴木企画調整室再任用主査（教育総務室再任用主査）、釘本こども政策監、内野輝くこども未来室担当課長、藤本教育部長、上原教育指導監、勝又こども・学校サポート室総括指導主事、田原学校教育課長、西村学校給食課長
審議内容	<ul style="list-style-type: none"><li>議事 京田辺市教育振興基本計画について</li><li>議事 こども大綱について</li></ul>

### ○議事

#### ・議事 京田辺市教育振興基本計画について

##### 事務局（資料に基づき説明）

**市長** 教育大綱で示された方向性を踏まえた計画になっており、いじめや不登校、デジタル化や教職員の働き方改革についても触れられている。計画を踏まえ、重点的な取り組みについて皆様からお話を伺いたい。計画を作ると、毎回「まん中が抜けていないか」が心配になる。本計画で中心となること、例えば「学校が楽しい」「学びが面白い」というところについて、ご意見等伺いたい。

**教育長** 計画を策定する際は、全体を網羅しなければならない中、例えば児童生徒の心の部分について、落とし込んではいるが、表現しきれていないところについては、学校現場でしっかりと取り組んでいくことが大切と考える。

基本計画の学校教育の分野については、これから全てのことについてデジタル化が主流になってくる中、GIGA スクール構想では市長に予算措置いただき、児童生徒全てにタブレット端末の導入ができた。子どもたちが学力を身につけ、自己肯定感を含めた豊かな人間性を育むため、これからの学校教育は、デジタルのツールを使いながら学力を伸ばし、対面で意見を出し合いお互いに高め合う、といった従来型とデジタルを融合させながら進めていく必要があると考える。

本市の児童生徒数の偏在解消については、今回、培良中学校における学校選択制

の導入を行ったが、今後は、最適な人数や、施設のあり方についても、中・長期を見据えた取組が求められる。

社会教育、生涯学習分野については、複合型公共施設へ中央公民館の機能や図書館の移転を計画しているが、「複合型」であることの利点を生かし、子育て支援、男女共同参画、高齢化社会等、色々な取組や交流を進めていくことも大切である。

**教育委員** 子どもや若者が中心になるような、学んで楽しい、また教職員が働いて楽しい、といった中心が見える取組があれば良いと思う。三山木小学校の5年生の総合学習を見たが、子どもたちが町に出て、食品ロスに対する子どもの発案が見えるような活動を、大規模校でも先生方が努力して行っていた。子どもたちが自分たちで体験できる機会をたくさん持つことが大事で、学びは楽しいということにつながると思う。社会教育に関しては、子ども若者カフェのような場所で、ワークショップ等、参画の可視化が方針に現れてくると良いかと思う。

**市長** 先生方が頑張っていていただいている。京田辺市は旧村も広く、今は地域的な支えがあるが、将来的にも地域の支え合いができるか考えていかなければならない。

**教育委員** これまでの取り組みも含め、必要な取り組みが網羅され、素晴らしい計画になっていると考える。これをどう具体的に住民、保護者、先生、子どもたちに進めていくか、醸成できるコミュニティをどう創造するかが鍵になると考える。今は地域が見えているようで見えない。素晴らしい計画ができて、全ての市民に心の醸成をするために、地域と連帯し教育に関わっていかなければならない。

**市長** 地域が見えているようで見えないという話は、教育だけでなく、うちの町をどうするのかという話につながっていく。地域コミュニティで教育に関わるということは、わかりやすく良いと思う。

**教育委員** 計画は、子どもたちの育成の下地を整備していくことかと思う。子どもたちの力を信じて最大限に生かしていくべき。整備という点では、先生の不足も心配であり、先生の環境を整えることが大事だと思う。ICTは勉強の面だけでなく、先生の事務や雑務の面でも活用し、先生が子どもと関わる時間を増やしていけるよう、予算をつけてもらえたらと思う。

また、(2)豊かな人間性をはぐくむ教育とあるが、最近いろんなところで戦争が起き、子どもたちがもっと平和について考えるべきと思っている。他を認めたり、他者との関わりを学び、平和の教育を京田辺市は大事にして欲しいと願う。戦争や地震で日常が急変するが、それでも日常を守っていくことを、行政や教育に携わる者がしていかなければならないと感じた。

**市長** 戦争の話を、今は家庭ではなく学校で聞くようになっている。学校だけでは難しいが、学校での学びは大切である。

**教育委員** 計画は、それぞれの施策の方向性がわかりやすく示され、共有できる良いものができたと思う。また、年ごとに振り返り検証されることも、次の年度の向上性に期待できる。

家庭内の教育をどう向上させていくかについて関心がある。家庭の繋がりも希薄になっており、格差ができていくという危機感がある。街中でも、だだをこねている子どもにスマホを与えたり、電車の中で、親も子も話さずスマホを見ている等、大人が子どもと接しようとしにくい場面をよく見かける。行政としては難しいと思うが、家庭教育の推進をしていければと思う。

また、学校教育は充実しているが、そこに通えていない子どもたちに対して、市が多様な場を設けていければと思う。

**市長** 発達の特性はみんなにある。その特性の中で、社会とどうコミュニケーションをとり、学びの場をどう確保するかが大事。教育委員会の取り組み状況について聞かせて欲しい。

**教育長** 教育支援センターを8月に設置した。これまでも未然防止や早期対応はしていたが、組織的に対応できるようにした。センター設置後、利用する子どもが11名増加した。来年は職員を1名増加し、アウトリーチも進めたい。

**市長** 第2次ベビーブームの頃は200万人ほど人がいたが、今は70～80万人ほどなので、みんなが力を発揮してもらわないと社会として成り立たないという認識を持たなければならない。中期まちづくりプランと整合性を取ってやっていきたいので、引き続き連携をお願いする。

## ・議 事 こども大綱について

**事務局** (資料に基づき説明)

**市長** こどもまん中応援サポーター宣言を行った。本年4月から市の組織にこども未来部を作り、妊娠や、結婚をしたい若者支援も含めて一貫した取組みを進める。教育と密接に関わるのは、こどもの意見表明権の関係で、説明資料の22ページにこどもの意見の件数があるが、こども若者いけんの会の参加人数は74人しかない。こどもの意見を聞くのは大変なこと。ワークショップなどで市の施策を知ってもらい、またそれに対する意見ももらい、つながることで、より街に関わりを持って

くれるのではないかと考える。

また、公に関わることの意義や楽しみを誰かが伝えていかなければならないと思う。公務員に限らず、街で困っている人をどう助けるかは、広い意味で公に関わるということであり、社会は広く意見を取りまとめ、意思形成していかなければならない、といったことを学ぶ機会が大切と考える。子どもの意見表明等のところで、教育委員会と連携をとっていけたらありがたい。

**教育長** 子どもの権利条約の一つに参加の権利があり、こども大綱も同じ。こどもを個として大切にしながら、意見を求める社会の流れを作らなければならない。

先日、市長も一緒に「京のかがやき2024」を鑑賞した。隼人舞は子ども、宇治田楽は子どもと大人、和知太鼓は青年、おどりは年配の方を中心にされ、見る側も出演側も、大人と子どもがそれぞれに頑張ったり楽しんだりする姿を見て理解し合うことができるイベントであった。子どもの意見表明と言うと難しく感じるが、地域や社会が子どもと一緒に何かをする場を作っていくことを通して取り組むことができると思う。これから、複合型施設も利用しながら、子どもを巻き込み、子どもを中心にするという思いを持ちながら接してもらえれば、こども大綱の趣旨が反映できると思う。

**教育委員** こどもの意見は輪の中の話し合いで出てくるのが理想で、ワークショップやカフェ形式が良いかと思う。先ほど三山木小学校の話をしたが、子どもたちが大人の社会へ出て行って、成功・失敗にかかわらず、自分が生かされていると感じることが、ひいては意見表明につながるのではないか。学校が取り組みを行う下地を育てることが大事。

同志社女子大学の学生と大住小学校へ出前事業に行く機会があったが、留学生はまちづくりに関心がある人が多く、留学生にまちづくりに関わってもらうこともよいと思う。

また、最近、中学校の制服の議論があるが、自分たちの着やすい制服について、学校が押しつけるのではなく、子どもが提案できる基礎づくりが必要と考える。

**教育委員** 京都新聞の記事で、75歳の方が電車の優先席に座っていたら、小学校中学年の子どもの席を譲れと言われ、譲ると座るなりゲームをし始めたという記事があった。これまでの社会も、「こどもがまん中」であったとは思いますが、今の子どもたちの本当の心の中の様子はどうなのかと思う。周辺の大人が押し量ることが大事かと思う。

30人学級で、発言しなくても授業は進んでいくが、全ての子が表現できるよ

うな環境をどう考えるかが、市長も言われたまん中の大事な事かと思う。子どもたちの心のキャパをどう広げるか、しっかり考えることが大事。

**教育委員** こども基本法で子どもの人権や意見を尊重しなければならないということは、大人が子どもに任せる意識をしていかなければならない。家庭ではつい親が先回りして手を差し伸べすぎる。学校行事でも自分たちで考えなさいと言うが、結局先生の流れに乗せられると子どもが言っていた。親もどうしたら良いか子どもに聞くが、結局大人の都合の良い流れに乗せていると思い反省した。大人が正しいと思っても、一歩引いて見守らなければならぬと感じた。市長がこどもの意見を聞くのは難しいと言われていたが、小学校高学年でディベートの授業があり、それが今の高校生活にも生かされ、自分の自信につながっていると子どもが言っている。ディベートは、反論の意見についてもそういう視点があるのかと納得していくという大切さがある。意見交換ができる機会が学校や家の中であれば、子どもたちが元気に声をあげられるようになるのではないか。また児童会や生徒会で子どもたちが主体的に動いていくことを教育委員会等が応援できれば、子どもたちの声が聞けるのではないか。小学校と中学校も交流し、お互いの学校をよくしていくような意見交換をする等、今ある枠組の中でも可能性は広がると思う。

**教育委員** 今の子どもたちは、言っても意見が通らないとか、やっても無駄といったあきらめ感のある世代に育っているように感じる。それがどこで培われているのかと考えると、やはり家庭や学校で受け身的に育ってしまっているように思う。そこをどう工夫していくかを考えると、学校の環境を良い意味でどう崩すかかと思う。自分の学校をどうすれば楽しく通えるか、制服や校則や、どんな授業がしたいかといった意見を発せられるような環境を大人が作らなければならない。また例えば市長が学校に行ってどんな学校が良いか等話し合う場があると良いのではないか。社会は自分たちの意見を受入れてくれるんだという空気を作らないと、日本は良くなれないという危機感がある。根底の環境をどう崩すかが大切かと思う。

**市長** 中期まちづくりプランを作るにあたり、中学生とワークショップをした。クーラーをつけてくださいと言った生徒がいたが、今、クーラーをつける計画を立てている。自分が意見を言うことで、変わることもあるという体験は大事かと思うので、教育委員会や学校と連携し、話ができる場が作れればと思う。また、北部や中部でも、出張ミライロをしたいと考えており、その際は中学校も関わってもらえるとありがたい。こども大綱の、生まれてから成長の過程について、学校や教育とは切り離せないなので、引き続きご支援を賜りたい。